複音唱歌

千里の道

ちさとの道も、あしもとよりぞ、はじまれる、葉末(はずえ)の露も、つもれば淵と、なるぞかし

雲ゐる山も、ちりひぢよりぞ、なれりける、ふみよむみちも、ことわりのみは、ひとつなり、

閨の板戸

閨のいた戸の、あけゆくそらに、朝日のかげの、さしそめぬれば、ねぐらをいづる、百八十鳥は、霞のうちに、ともよびかはし、夢見る蝶も、とくおきいでて、むれつゝはなに、まひあそぶなり、あさいねする身の、そのおこたりを、いさむるさまなる、春のあけぼの。

洋琴及箏曲

独彈曲　一曲

二人連彈曲　二曲

箏曲　六段

管絃樂　三曲

コーラルナイトソング

チャーミングヴァレー

マーチ

右唱歌音樂ノ効益及該科開設ノ方法教授ノ順序等ハ素ヨリ其一端ヲ示スニ過ギズト雖ドモ幸ニ諸氏ノ同感ヲ得テ自今唱歌ヲ學校ニ導クノ端緒ヲ開クニ至ラバ豈惟本掛ノ幸榮ノミナランヤ。實ニ我邦教育上ノ一大幸ト云フベキナリ

〔手書き、長野県上伊那郷土館蔵〕

六　音楽取調掛における調査および研究

音楽取調掛設置に際して、伊澤修二が文部卿に提出した「取調見込書」には「東西二洋ノ音樂ヲ折衷シテ新曲ヲ作ル事」「將來國樂ヲ興スベキ人物ヲ養成スル事」「諸學校ニ音樂ヲ實施スル事」の三項目が目標としてかかげられた。左の報告書はその中の第一項に関する調査・研究の実績を記したものである（『音監經伺書類上下、音樂取調掛成績申報書』明治十七年）。

（一）「諸種ノ樂曲取調ノ事」

諸種ノ樂曲中特ニ取調ヲ要スルモノハ本邦ノ部ニ在テ雅樂俗樂トシ外國ノ部ニ在テ西洋樂清樂トス

俗樂ニ於テハ箏曲、長唄、等ヲ始メ其他各種ニ及ビ西洋樂ニ於テハ古樂今代樂等皆其取調ヲ要スルモノトス

音律ノ事タル固ヨリ人ノ性情ノ自然ニ出ツルモノナレバ古今ヲ問ハズ東西ヲ論ゼズ殆ド同一ニ帰スベシト雖モ其旋法ニ至リテハ各相異ナル所アリ随テ得失アルヲ免レザルモノナレバ博ク諸樂ノ根理ヲ研究シ其得失ヲ考査シ其良否ヲ審覈シ以テ彼長ヲ取リ此短ヲ補フノ用ニ供セザル可ラズ是レ第一ニ諸種ノ樂曲取調ヲ要スル所以ナリ

樂曲取調ノ方法ハ従来口傳ニ出デ樂譜ナキモノハ之ヲ精究審解シテ其樂譜ヲ作リ若シ其譜アルモ各種異様ノ方法ヲ用ヰタルモノハ之ヲ各國普通ノ樂譜ニ改メ精確明瞭ニ其曲調ヲ記スル事ヲ務ムベシ

斯ノ如ク諸種ノ樂曲ヲ同一ノ基本ニ帰シ普通ノ樂譜ニヨリテ之ヲ

記シ交互相比シテ其得失良否ヲ考査シ以テ取捨ヲ決定スルモノトス

善良ノ樂曲ハ其何類ニ属スルヲ問ハズ務メテ之ガ和声ヲ作リ其樂曲ハ輯メテ一書トナシ樂譜ト共ニ剞劂ニ付シテ永存スベシ

國歌資料ノ撰定ヲ始メ其他将来當掛ニ於テ作ル所ノ樂曲ハ彼我雅俗流派ヲ論セズ至良ト認ムルモノハ之ニ和声ヲ附シ漸次蒐集シテ書冊ト作シ之ヲ世ニ公ニスベシ

此類ノ歌曲撰定ノ方法ハ先最初ニ當掛員ヲシテ歌詞ヲ作ラシメ之ニ依リテ同掛員中音樂ニ通スル者ヲシテ樂譜ヲ作ラシムベシ然レドモ茲ニ撰定スル所ノモノハ通常ノ和歌ニ異ナリ樂器ニ和シテ歌フベキ歌曲ナレバ其專旨トスル所モ亦樂曲ニ在リテ歌詞ハ之ニ次クモノトス

樂曲ハ總テ普通ノ譜法ヲ用ヰテ之ヲ記シ其最佳ナルモノヲ撰ビメーソン氏ヲシテ其和声ヲ作ラシメ又ハ歐米各國ノ音樂新誌ニ載セ西人ヲシテ之ガ和声ヲ作ラシムベシ尤豫メ其新誌ニ廣告シテ至良ノ和声ヲ作リタル者ニハ若干ノ賞金ヲ附與スルノ法ヲ設クルトキハ随分有名ノ大家モ喜ンデ其事業ヲ執ルベケレバ少許ノ費用ヲ以テ最良ノ結果ヲ得且本邦人ノ作リタル樂曲モ博ク世界ニ知ラルヽノ理ニシテ頗ル良法ト云フベキナリ

「高等音樂ノ事」

凡ソ音樂ノ高等ナルハ管絃樂ニ如クモノナシ而シテ高等ノ音樂ハ國民ニ高等ノ思想ヲ感發セシムルモノナレバ國歌ノ撰定等宜シク之ニ依ルベキモノトス今之ヲ分チテ本邦及西洋管絃樂ノ二種トス

本邦管絃樂ハ特ニ雅樂局ノ設アリテ之ヲ專修スルガ故ニ當掛ニ於テハ特別ノ理由アルノ際ニ非レバ之ヲ練習スルヲ要セザルベシ

西洋管絃樂ハ傳習ノ日猶浅シト雖モ當掛助教等ハ既ニ譜面ニヨリテ之ヲ合奏シ得ルノ地位ニ進ミタレバ歐米諸國ヨリ此類ノ樂譜ヲ購入シ之ニヨリテ進歩ノ方法ヲ研究スベシ又本邦人ノ作曲ニテモ一旦其和声ヲ作為スルトキハ皆此類ノ樂器ヲ以テ合奏シ得ルモノナリ

和声ノ事タル其理頗ル高尚ニ渉リ本邦人ノ未ダ暁通セザル所ノモノナリト雖モメーソン氏ノ講義及諸種ノ著書等ニヨリテ其理ヲ研究シ且樂器ニヨリテ実際ニ之ヲ試ルノ方法ヲ設クベシ

「音樂傳習ノ事」

當掛ニ於テハ傳習人ニ授クベキモノハ唱歌、洋琴、風琴、箏、胡弓、及歐洲管絃樂器トス

唱歌ヲ傳習スルハ最初簡單ナル単音歌曲ニ起リ漸次高等ノ唱歌ニ及フモノトス

諸重音唱歌ヲ教授スルハ甚ダ難事ニ属スト雖トモ現今ニ在リテハ當掛助教等略其理ニ通シタレバ自今ハ高等ノ唱歌書及メーソン氏掛圖等ヨリ適當ノ歌曲ヲ抜萃シ先ツ之ヲ當掛傳習人ニ施シテ其適否ヲ試ミ次ニ女子師範學校ニ施シ漸ヲ以テ諸學校ニ及ボスベシ

洋琴ノ練習ハ将来彼我雅俗何レノ音樂ヲ學ブニモ必要ニシテ実ニ音樂ノ其礎トモ称スベキモノナレバ當掛傳習人必習ノ科目ト定ムベシ

箏及胡弓ハ将来學校唱歌ニ適用スベキモノナル事既ニ前章ニ述ベタル如クナレバ是亦必習ノ科目ト定ムベシ風琴ヲ授クルモ亦其理由之ニ同シ

管絃樂器ハ高等ノ音樂ニ進ムノ徒必ズ學バザル可ラザルモノナレバ當掛ニ於テハ傳習人ノ志望ニ任シテ之ヲ撰習セシムベシ

當掛ニ箏テ若干名ノ傳習人ヲ置キ之ヲ教養スルヲ要スル所以ハ學校唱歌ノ事タル創設ニ属スルヲ以テ新曲ヲ得ル毎ニ先試ニ之ヲ施シテ其適否ヲ檢スルノ具無カル可ラズ是レ傳習人ヲ置クベキ理由ノ一ナリ音樂ノ事タル頗ル習熟シ難キ一科ニシテ尋常ノ人ニテハ僅々数年ニ成業スル能ハズト雖モ之ヲ本邦音樂ニ熟スル者ニ傳習スルトキハ短少ノ期月ヲ以テ好結果ヲ得ル事既ニ當掛ノ経験ニ於テ明瞭ナリ故ニ此ノ如キ徒ニ傳習スルハ至少ノ費額ト年月トヲ以テ至適ノ音樂教員ヲ養成スル事ヲ得ベシ是レ傳習人ヲ置クベキ理由ノ二ナリ将来我國樂ヲ振興改進スル事ノ如キハ我音樂ニ熟シ能ク音樂ノ理ニ通スルモノヲ得ルニ非レバ能ハズ是ノ如キ者ハ當掛ニ於テ養成スルニ非レバ決シテ他ニ求ムベカラズ是レ傳習人ヲ置クベキ理由ノ三ナリ

女子師範學校ニ於テ傳習スベキモノハ唱歌、風琴、箏及胡弓トス

當掛ニ次キ唱歌ノ最モ高尚ノ地ニ達スベキモノハ東京女子師範學校ニ在リ該校生徒ハ諸重音唱歌ノ初歩モ既ニ練習スルニ至リタレバ自今ハ當掛ニ於テ研究ノ上一層高等ノモノヲ得ルニ随ヒメーソン氏及ビ助教等ヲシテ之ヲ該校ニ施サシムベシ

風琴ハ音調ノ狂ヒ極メテ少ク學校唱歌ノ教授ニハ最モ適當ニシテ且習ヒ易キモノナレバ之ヲ該校生徒ニ傳習セバ他日唱歌ヲ教授スルニ當リ大ナル助トナルベシ

箏及胡弓ハ之ヲ習フ事風琴ニ比スレバ遥カニ難シト雖モ本邦普通ノ樂器ニシテ且其價モ廉ナルカ故ニ學校唱歌ニハ頗ル適當ノモノトス故ニ該校生徒必習ノ一科ト定ムベシ

東京師範學校ニ於テ傳習スベキモノハ女子師範學校ニ大同小異ナリト雖モ甲校ノ唱歌ハ乙校ノ唱歌ニ比スレバ稍下等ニ居リ又箏、胡弓ノ傳習ハ難キニ過キ到底之ヲ施ス事能ハザルモノトス

學習院ニハ專ラ唱歌ノ傳習ヲ為シ特別有志ノ輩ニハ管絃樂器ノ傳習ヲ許スモ可ナルベシ

〔後略〕

このあと明治十五年一月の演習会に及んでいる。一九八頁を参照。

（二）「内外音律ノ異同研究ノ事」

其一　音樂教師メーソン氏来航ノ始メニ當リ本邦在来ノ諸種ノ音樂ヲ審聽セシメ其音律ノ西律ニ異ナル所アリヤ又其声曲ノ正理ニ適スルヤ否ヲ訊問セシニ同氏ノ言ニ本邦音樂ニ熟スル所ノ諸家奏スル所ハ毫モ西律ニ異ナル事ナシ但其旋律ノ法ニ於テハ少ク異ナル所アリト云ヒシカ今日ニ至リテハ愈其真ニ然ルヲ信シテ毫モ疑フ所アルヲ見ズ

其二　本邦音樂家ニ就キ我音律ノ西洋ニ齋キヤ否ヲ訊問セシニ箏曲家山勢松韻ノ如キハ始メテ「ピアノ」ノ音ヲ知リタル時ヨリ其律ト箏ノ調子トハ毫モ異ナル所ナシト云ヘリ又雅樂家ノ諸氏ニ就テ之ヲ質セシニ我十二律ハ「ピアノ」ノ十二音（全音七半音五ヲ合シテ云フ）ニ殆ト相同シト云ヘリ於是乎東西音楽家ノ説ク所恰モ符節ヲ合スルガ如キヲ知レリ

其三　音樂取調掛ニ傳習人ヲ置キシ以来入學セシ所ノモノハ皆從前或ハ箏曲ニ或ハ長謡ニ或ハ清樂ニ或ハ雅樂ニ通セシ者ナリ故ニ若